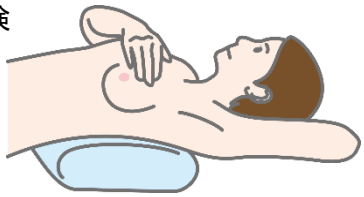
乳がん Q&A（2）　広報げろ　2021.1

乳がん Q&A(2)

Q:　乳がん検診の予約が取れないので手遅れにならないか心配です。

A:　がん細胞は、分裂して 1 個が 2 個、4 個、8 個と増えていき、30 回の分裂で約 1cm の大きさになります。一回の分裂に 100 日ほどかかるとされているので（ダブリングタイム)、計算上は 1cm の大きさになるのに 8 年近くかかることになります。1cm というのは、やっと検査で発見可能となる大きさです。しかし、がん細胞は計算通りに大きくなるものではありません。たとえば、1cm のしこりが 2cm までのいわゆる早期がん（ステージⅠ）として発見されるか、あるいは自己検診でわかるようになるのに 2 年以上はかかっていると考えられています。毎月一回自己検診し、異常があれば検診を待つことなく受診を、異常なければ慌てることなく 1 年から 2 年に一回、混み合う時期をさけて計画的に検診を受けていれば乳がんは早期のうちに発見できます。



Q:　乳がんは画像診断で確定できますか。

A:　マンモグラフィー、超音波（エコー)、CT、MRI などでは異常の存在は診断できますが、がんと確定はできません。乳がんと確定するためにはまず、超音波画像を見ながら、ガイド下に細い針をしこりに差し込んで細胞を吸い出す細胞診、やや太い針で肉片を取り出す針生検、皮膚を切開してしこり、またその一部を取り出す切開生検（生体検査）を行います。痛みを伴う場合には局所麻酔を併用します。検査は一時間以内に終わり、車を運転してきてまた運転して帰れます。入院の必要はありません。とりだした細胞や組織を顕微鏡で病理の専門家が詳しく調べて判断するので、検査の結果が解るのに 10 日程度かかります。細胞診では、悪性か悪性でないかが、針生検や切開生検では、がんの性質、手術方法、抗がん剤による治療の必要性などが判断されます。

Q:　金山病院で乳がんの検査、手術はできますか。

A:　金山病院外科では乳がんばかりでなく、胃がん、大腸がんなどの消化器がんの手術を行っています。乳がんにおいても、細胞診、針生検、切開生検などを行ってがんを確定し、現在確立されている治療ガイドラインに従って、乳房切除術、乳房温存手術、腋窩リンパ節検査などを行っています。重い合併症があって当院での対応が困難であったり、他医での治療を希望される方に対しては関係する病院に依頼し、連携して治療を行い、ご希望に沿っています。がんの治療には長期にわたる病院とのつながりが必要です。通院できる近くの病院でがんの治療を行うことは地域生活を維持していくうえで大切なことと考えています。

Q:　抗がん剤による治療はどのように行われますか。

A:　過去においてはがんに効くとされる抗がん剤が一種類から複数種、絨毯爆撃の様に投与され、正常な細胞も傷つけ、重度の副作用に苦しむこともありました。現在では多くの経験と、がんの特性の研究からピンポイントにがんを攻撃する薬剤も使われるようになり副作用もおおきく軽減されてきています。初期治療においては、治療のガイドラインも確立しており、金山病院でもこれに沿って治療を行っています。主な治療法は 3 週間に 1 回、通院または副作用確認のために一日入院で 4 回から 6 回、種類によっては一年間継続の薬剤投与です。

◎**乳がん Q&A** については下呂市広報平成 30 年 10 月号にも掲載しています。合わせてごらんください。

下呂市立金山病院　顧問　乳腺外来　古田智彦